

進学に関わる費用について

大学に進学するにあたり、費用に関する話題は避けて通ることはできません。今回は進学費用と、現在利用できる奨学金制度について取り上げます。

まず、受験料は私立大と比べると国公立大の方が安価です。私立大の場合、おおよそ1校あたり3,500円程度ですが、医歯薬系統の場合は高額になる場合もあります。

入試方式	金額のめやす
センター試験	3教科以上 18,000円 2教科以下 12,000円 ※成績通知を希望する場合は、プラス800円
国公立大・2次試験(平均)	1校につき 17,000円
私立大・一般入試(平均)	1校につき 約35,000円 ※歯学系・医学系では40,000円～60,000円かかる場合も。

また、遠方の大学を受験する場合には交通費・宿泊費も発生します。例えば、沖縄から東京に行く場合、往復の航空券(30,000円程度)+宿泊先までの電車賃がかかります。受験校が早めに決まっていれば、早割などのサービスを利用して、費用を抑えることができるかもしれません。また、現在は大学の所在地以外で受験できる「地方試験」を実施している大学もあります。大学ごとに実施場所や日程が異なりますが、沖縄県内で地方試験を実施している大学がたくさんあります。

無事に合格した後は、初年度に大学に納入するお金があります。

初年度納付金	入学する大学に納付する入学金、授業料など
教科書・教材購入費	パソコン、教科書など
住居に関連する費用	住まいを探しにいくための交通費や宿泊費、敷金・礼金・斡旋手数料、前払い分の家賃など
生活用品購入費	家具、家電、寝具、日用雑貨、衣類など

初年度納付金の目安

学費の内訳は「入学金」「授業料」「施設費」と大きく3つに分かれます。

入学金は1年目だけで必要で、2年目以降は「授業料」と「施設費」のみが基本となります。ただし、学校や学ぶ系統により学費が大きく異なるうえ、実習費や教材費など、その他のさまざまな費用が必要になる場合もあります。以下の表はあくまでも平均の金額なので、志望校の資料を取り寄せ正確な金額をチェックすることを忘れないでください。

■初年度に必要な学費の目安

学校種別	合計	入学金	授業料	施設費等
国公立大学	820,000円	280,000円	540,000円	-
私立大学(文系)	1,140,000円	260,000円	720,000円	160,000円
私立大学(理系)	1,370,000円	260,000円	930,000円	180,000円
私立大学(その他系統)	2,110,000円	380,000円	1,400,000円	330,000円
私立大学(医歯系)	2,110,000円	380,000円	1,400,000円	330,000円
専修学校(専門課程)	1,140,000円	200,000円	660,000円	280,000円

文部科学省平成21年度調査結果より作成(専修学校はシンガク図鑑掲載校より)

公立大学では学校ごとに入学金が異なるうえ、地元出身か他府県からの入学かで金額が変わってきます。

■地元出身者の場合:236,000円(平均) ■他府県入学者の場合:402,000円(平均)

奨学金制度について

奨学金には、卒業後に返済する「貸与型」と返済の必要がない「給付型」の2種類に分けられます。代表的なものに「日本学生支援機構奨学金」がありますが、県が運用する「沖縄県国際交流人材育成財団奨学金」、市町村、学校独自に貸与するもの、福祉の分野の奨学金があります。

日本学生支援機構奨学金 (<http://www.jasso.go.jp/>)

最も利用しやすい国の奨学金制度で、第一種と第二種の2種類があります。

第一種	評定平均値 3.5 以上	無利子	月額 3 ~ 6 万 4 千円
第二種	平均以上の成績	有利子	月額 3 ~ 1 2 万円

申請方法は「予約採用」と「在学採用」があります。予約採用は高校3年生の5月頃、9月頃、12月頃に募集があります。第一種は5月のみになります。進学先が決まっていなくても申請できます。在学採用は進学後に進学先の学校を通して申し込みます。ただし、在学採用は学校によって採用枠が決まっているため。奨学金が必要な場合は予約採用を申請しておく方がよいでしょう。

沖縄県国際交流人材育成財団奨学金 (<http://www.oihf.or.jp/>)

沖縄県が運用している奨学金で、県内すべての学生が対象となります。月額4~5万5千円程度借りることができます。申請は卒業後3~4月に本人が直接財団へ申請することになります。日本学生支援機構奨学金と重複して申請することはできますが、併用はできません。どちらかを選択することになります。

市町村の奨学金

県内の各市町村も独自の奨学金を設けているところがあります。支給額は市町村によって異なります。国や県の奨学金との併用を可能としている市町村が多いので、自分が住んでいる市町村の情報をチェックしてみましょう。2014年10月現在、県内では渡嘉敷村、北大東島以外の市町村で奨学金制度が用意されています。

学校独自の奨学金制度

主に大学側が独自の制度として用意している場合が多いです。誰もが対象となるわけではなく、成績が優秀で家庭の経済的な事情を審査の上で採用となります。学費以外にも利用可能な給付型と入学金や授業料などを減額する減免型、卒業後に指定の職場で働くことで返済を免除される返済免除型があります。沖縄の学生のみを対象とした制度もあります。進学を考えている大学が奨学金制度を用意しているか確認してみましょう。大学のHPなどでチェックすることができます。

返還免除となる特定分野の奨学金

現在、看護師や介護士、保育士など人材が不足している分野に対して国や県、民間が実施している特定分野の奨学金があります。資格取得後に一定の条件をクリアすると在学中に貸与された奨学金の返還が免除されるという特長があります。看護師等修学資金、介護福祉士等修学資金、保育士修学資金の3つがあります。

上記以外に、公益財団法人 コカ・コーラ教育・環境財団奨学金、あしなが育英会による奨学金、交通遺児育英会による奨学金なども学校に募集がきます。興味のある人は、学校の奨学金担当の先生へ声をかけてください。

多くの奨学金は卒業後に返済をしなければいけません。ご家庭でしっかり話し合っ利用していく必要があります。

(参考：奨学金なるほど！相談所 <http://www.shogakukin.jp/>)



14日(土)	中1・2年生 第3回学力推移、中3スタディ・サポート、高1年 河合全統記述模試、高2 センター早期対策模試
--------	---